



令和7(2025)年度  
県立学校日本語支援事業 報告書

# 学校から始まる 多様性 × 共生



OKINAWA



沖縄県

令和8(2026)年2月

ことば: *やー なー ふか だー*  
言語: *沖縄の24時間*  
理由: *はあろがたよくして*

A.R (沖縄工業高校)

ことば: *なんくるないさ*  
言語: *沖縄方言*  
理由: *懐かしい言葉で癒されるから*

G.R.H (沖縄工業高校)

ことば: *百発百中*  
言語: *日本語*  
理由: *成功したから*

H.E (中部農林高校)

ことば: *いちご、いち、Dz hot*  
言語: *-日本語  
-英語*  
理由: *おもしろいから*

H.S (嘉手納高校)

ことば: *チバリヨ*  
言語: *おきむゆの言葉*  
理由: *おきむゆの言葉が好きだから*

G.Y (知念高校)

ことば: *大好き*  
言語: *日本語*  
理由: *言わぬが花言葉だから*

J.T (泊高校)

L.C (中部農林高校)

ことば: *ハヤシケン*  
言語: *日本語 (オリジナル)*  
理由: *「ハ」の発音が好きからです*

N.M.R (南風原高校)

ことば: *がんばる*  
言語: *日本語*  
理由: *頑張る*

# 好きな

1. あなたの一番好きなことばは？

ことば: 思いやり N.M (具志川商業)  
言語: 日本  
理由: きもちがぴたりするから。  
びっ列

ことば: Never give up  
言語: 英語  
理由: 人生かどわらむずかしいくなつてあきらめない  
ことが大事 R.R (嘉手納高校)

ことば: Music  
言語: 英語  
理由: 私がこの言葉を選んだ理由は、音楽は、人々の心をおどろかすような気持ちの時でも、言語や国が違っても音楽で自分の感情を伝えることができるからだと思います。 P.P (豊見城高校)

ことば: 很高兴见到你 (おなをに会えてうれしい)  
(Nice to meet you)  
言語: 中国語、日本語、英語  
理由: この単語は普段でも使えます S.K (那覇みらい)

ことば: 金  
言語: 金  
理由: 金  
S.D.J.C (中部商業)

ことば: 糠星 (ぬかほし)  
言語: 日本語  
理由: キレイし、見て見たいから  
→ 夜空に輝く星、  
たここの水は星 S.M (豊見城高校)

ことば: 君ならできると分かってる。  
言語: タイ言語 (ถ้าเธอทำได้) 君は素晴らしい。  
理由: この言葉が好きで、すごく心が救われる。  
できるか不安なときに、大切な人が「君ならできると分かってる。君は素晴らしい」と信じてくれると、すごく心が癒される。  
たとえうまくできなくても、それでもいいって思える (笑) S.P (泊高校)

ことば: 笑顔 (微笑)  
言語: 日本語 (台湾語)  
理由: 相手と自分か111気持ちになるから。 Y.K (石川)

ことば: 鬼の目にも涙  
言語: 日本のことば  
理由: なんか、意味はわからな川と、鬼憎くて、おもしろいと思える。 Z.S (泊高校)

# ことば 紹介

## 2. その理由は?

# はじめに

本報告書は、沖縄県より受託いたしました「県立学校日本語支援事業」の3年目における取り組みをまとめたものです。本事業は、日本語を母語としない外国につながる生徒たちが直面する教育的・生活的課題に対し、日本語能力の向上、進学・就職支援、そして地域社会への適応を包括的に支援することを目的としております。

事業開始から3年目を迎えた今年度、生徒たちの日本語能力や学習意欲の向上は一層顕著なものとなりました。日本語コーディネーターや支援員との信頼関係を礎に、生徒たちが自らの言葉で自己を表現し、学習に主体的に取り組む姿は、本事業の大きな成果であると確信しております。

支援体制においては、拠点校（泊高校、中部商業高校、嘉手納高校）に配置した3名の日本語コーディネーターと、支援員が配置された15校との連携をさらに強化し一人ひとりの状況に寄り添ったきめ細かな支援を展開してまいりました。この3年間で、学校が「安心できる居場所」となり、成績向上や主体的なキャリア形成を実現する生徒が続々と誕生していることは、私どもの大きな喜びであり、活動の原動力となっております。

一方で、福祉や在留資格への対応、多様化する進路支援など、依然として解決すべき課題も散見されます。本報告書では、現場の実情や生徒たちの生の声を反映し、成果と課題を整理いたしました。本事業が、生徒一人ひとりの未来を拓き、地域社会全体の活力へと繋がる一助となれば幸いです。

最後になりますが、本事業の推進にあたり多大なるご理解とご協力を賜りました関係各位に深く感謝申し上げますとともに、今後とも忌憚のないご意見をお寄せいただけますようお願い申し上げます。



運営団体：株式会社うなあ沖縄

# 目次

3 はじめに

## 1

5 事業概要

7 日本語支援 3 本柱

8 日本語支援における拠点校と配置校・巡回校

9 日本語支援員の仕事／日本語支援員研修

## 2

11 日本語支援

13 キャリア支援・居場所支援

## 3

15 多言語スピーチ交流会

17 Happy2026 オンライン新年交流会

18 オンラインキャリアイベント

## 4

19 協議会および研修会

21 拠点校の声・取り組み

23 支援員の声

25 生徒の声

27 メディア掲載

28 おわりに

# 県立学校日本語支援事業とは



## 事業目的

本事業は、共生社会の実現に向けた外国につながる生徒たちの教育の質を向上させることを目指しています。外国につながる生徒たちに対する支援体制を充実させることにより、彼らが自立できる力を育成します。

## 事業背景

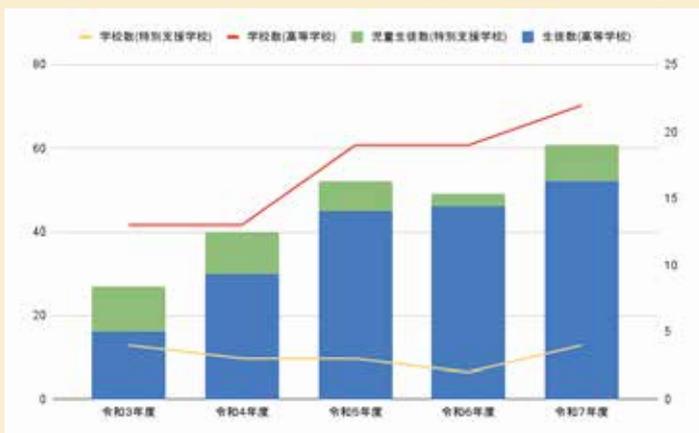
日本における在留外国人数は、2025年6月末時点で約395万人と過去最高を更新し、年々増加傾向にあります。

※出典：出入国在留管理庁「令和7年6月末現在における在留外国人数について」

それに伴い、日本語指導が必要な児童生徒数は約6万9千人で過去最多となり10年余りで約2倍に増加しています。沖縄県においても、日本語支援のニーズの高まりが伺えます。

※出典：文部科学省「外国人児童生徒等教育の現状と課題（令和7年4月）」

沖縄県立学校における日本語指導が必要な児童生徒数の推移



沖縄県立学校における日本語支援を希望している児童生徒数の推移



※沖縄県教育委員会「令和7年度県立学校日本語支援事業 第2回連絡協議会」配布資料を参考に作成

## 生徒はさまざまな背景をもっています

- 日米国際結婚家庭の子（重国籍）
- 小学校・中学校で沖縄へ移住してきた子
- 日本生まれ、日本育ちの外国ルーツの子
- 中学校までインターナショナルスクールに通っていた子
- 宮古・石垣など離島の子
- 留学生

## ルーツも多岐に渡ります

- 日本
- フィリピン
- ブラジル
- 韓国
- アメリカ
- セネガル
- 台湾
- ネパール
- カンボジア
- タイ
- ジャマイカ
- ニュージーランド
- 中国



## 日本語支援が必要な生徒とは？

※1 文部科学省「日本語指導の対象となる児童生徒」『文部科学省』

※2 学習言語とは、抽象的・概念的な言語や教科学習に必要な認知・思考面に必要な言語のことです。

文部科学省によると、

海外から帰国した児童生徒、外国人児童生徒、重国籍や保護者の一人が外国籍である等の理由で日本語以外の言語を家庭内で使用しているなどの事情により、「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」及び「日常会話ができても、学年相当の学習言語能力が不足し、学習活動への取組に支障が生じている児童生徒」※1

を日本語支援が必要な生徒としているようです。

日本語で日常会話がわかるようになるまでに2～3年、学習言語※2が理解できるようになるまでに5～10年程度必要だと言われています。低学年で来日した子どもや、日本生まれ日本育ちですが家庭での言語が日本語以外の子どもは日常会話の習得が速いですが、母語基盤がしっかりしていないため学習言語の習得に時間がかかります。

一方、小学校高学年以降に来日した子どもは、日常会話の習得に少し時間はかかりますが、母語基盤が確立されているため、学習言語の習得をする際に母語の力を借りて学習を進めることができます。

### 生徒 B

- ・外国籍 or 日本国籍
- ・日本生まれ、日本育ち、片方の親が外国ルーツ
- ・母語は中国語／英語／日本語
- ・進学に関するさまざまな課題

### 生徒 A

- ・日本、アメリカの国際結婚家庭
- ・小学校3年生から日本の公立校  
(小・中は日米間の移動あり)
- ・母語は英語
- ・国語、社会など理解が難しい授業がある

### 生徒 C

- ・外国籍
- ・小学6年生から日本の公立校
- ・母語はタイ語
- ・日本語でのコミュニケーションが難しい



### 生徒 D

- ・日本、アメリカの国際結婚家庭
- ・日本育ちだが、インターナショナルスクール育ち
- ・母語は英語
- ・理解が難しい授業が多い

### 生徒 E

- ・日本、フィリピンの国際結婚家庭
- ・高校1年生から日本の公立校
- ・母語はタガログ語
- ・国語、社会など理解が難しい授業がある

# 日本語支援3本柱

本事業では、

日本語指導が必要な生徒が多く在籍する県立学校3校を拠点校として指定し、

各校に日本語指導コーディネーターを1名ずつ配置しています。

また、日本語指導支援員の派遣等を行い、学校と連携した支援体制を構築しています。

これらの体制のもと、次の3本の柱を中心に支援を実施しています。

## 日本語支援

日本語や母語を含めた言語能力を把握するための  
実施計画や実施後の評価、支援方法の検討などを立案します。  
オンライン日本語クラスの実施計画なども行います。

## キャリア支援

キャリア支援に関する情報を収集し、  
個々に応じて卒業後を見据えた支援を行います。  
また、キャリア支援関係のイベントを立案、  
運営します。

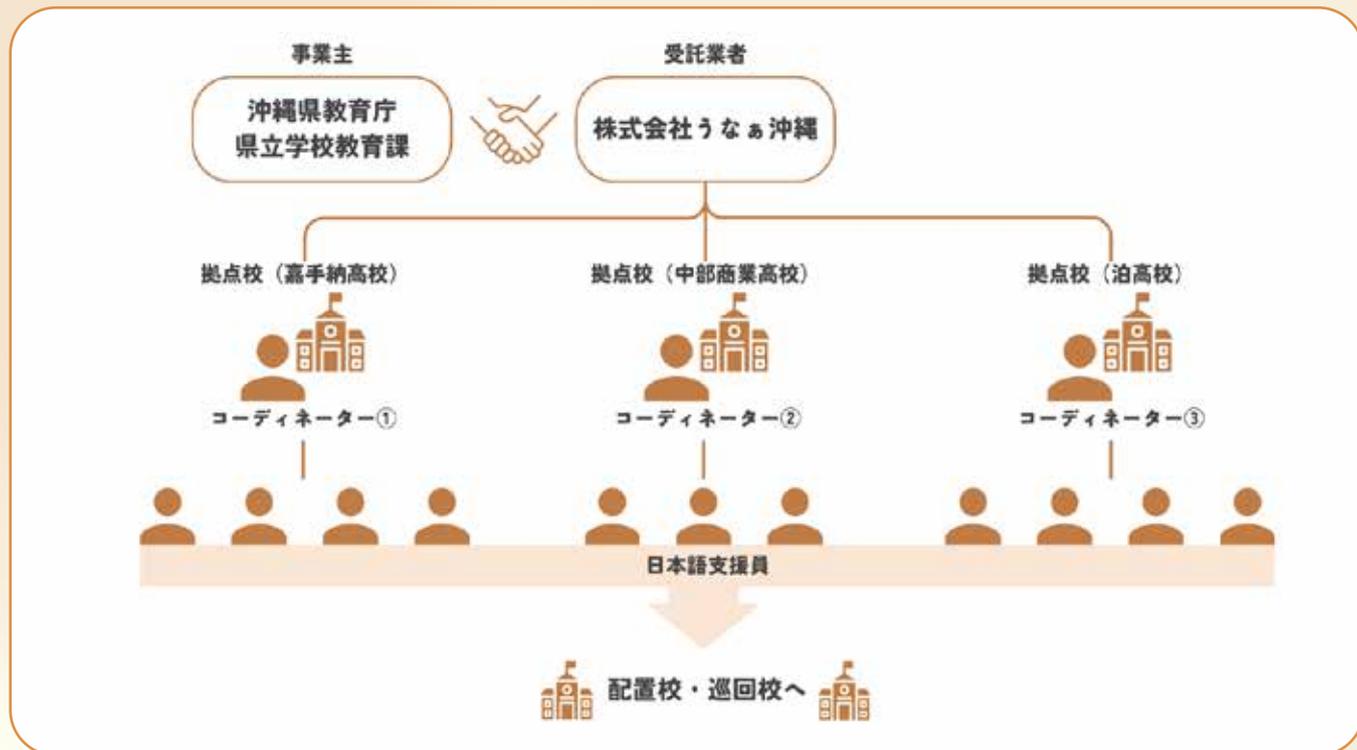
## 居場所支援

生徒が学校で安心して過ごせるよう、  
生徒の置かれている環境などを面談や  
普段の様子から確認し、環境整備を行います。

### [コーディネーターの資格や経験]

- ・日本語教師資格、日本語学校勤務
- ・元・貧困家庭の子どもへの学習支援者
- ・平和教育関連施設での勤務
- ・日系3世、多文化・異文化理解の講話担当
- ・教員免許保持、元・通信制高校教員
- ・元・大手会社で貿易事務の経験
- ・海外留学の経験

# 事業実施体制



## 拠点校および配置校・巡回校



令和7年度  
拠点校 3校



配置校・巡回校 12校



# 日本語支援員の仕事

生徒に寄り添い、生徒が自分らしく生きていけるよう、日本語支援・キャリア支援・居場所支援など、様々な角度から生徒へのアプローチが必要な業務です。

様々なバックグラウンド・経歴・思いを持った支援員が、「外国ルーツの高校生を支援したい」という共通の思いを持って集まっています。この支援事業は日本語支援員の存在が必要不可欠です。母語支援員や言語聴覚士の方々にも支えられています。

## 【日本語支援員】

日本語支援員が保持している資格\*2026年1月5日時点

- ・日本語教師資格（5名）
- ・教員免許資格（3名）
- ・社会福祉士（1名）
- ・母語支援員（ベトナム語、中国語、ポルトガル語、フランス語、英語、韓国語）



その他必要に応じて上記以外の母語支援員の派遣や、言語聴覚士より支援の方向性や専門的な助言をいただいています。

中南米ルーツ

こどもがダブル、  
親族がダブル

平和教育活動、  
ワークショップ開催、  
戦跡研究

キャリアカウンセラー、  
やさしい日本語講師

グラフィックデザイナー

現役大学生

看護師

元教員、日本語教師、  
塾講師、現役講師

## バックグラウンド

パソコンインストラクター、  
個人事業経営

国際結婚

特別支援の経験

海外留学の経験

介護福祉士

韓国語、英語、ポルトガル語、  
中国語、フランス語、スペイン語話者

秘書士

マルチリンガル

# 日本語支援員研修

日本語支援員として必要な知識を習得し、日々の支援に活かすことを目的に、外部講演会へ参加するとともに、研修および情報共有会を実施しました。

## ◎ヤングケアラーに対する理解を深めるシンポジウム出席（2025年7月22日）

- 内容：・ヤングケアラーを取り巻く法整備の進展や支援の在り方について理解を深めた。  
・あわせて、学校および地域が果たすべき役割や、関係機関との連携の重要性を学んだ。  
・現場における早期発見と継続的な支援の必要性を確認した。

## ◎日本語支援員の交流&相談会（2025年8月21日実施）

- 内容：・事業概要及び就業規則の確認  
・学校での活動・業務内容について確認  
・「やさしい日本語」の紹介  
・各学校における支援の状況について共有、質問相談



## ◎オンラインにて研修後のフィードバック（2025年8月27日・28日実施）

- 内容：・前回の「日本語支援員の交流&相談会」を受けてのフィードバック  
・各学校における支援の状況について共有、質問相談

## ◎キャリア支援のための研修（2025年10月24日実施）

- 内容：・キャリア支援の一環としての自己理解ワークシートの活用  
・自己理解ワークの実践方法  
・実施後のフィードバック方法



## ◎在留資格に関する研修会（2025年11月20日実施）

- 内容：在留資格の種類・特徴・相談事例について講話、質疑応答

## 現場で活用できる研修内容例：やさしい日本語

### ●「やさしい日本語」のポイント

1. 簡単な言葉を使う  
▶ 漢語・敬語・カタカナ語・オノマトペは、意外とわかりづらいです。
2. 短い文で話す  
▶ 一文を短くすると、わかりやすいです。  
(例)「私には医者をしている兄がいます」→「私には兄がいます。兄（彼）は医者をしています」
3. 優先順位の高いものを伝える
4. 文末は「です」「ます」を使う  
▶ タメ口・過度な敬語・男女による語尾の違い（～じゃん、～よね）・方言は、わかりづらいです。  
(例)「〇〇やっておくんだよ」→「〇〇してください」「明日は休みだからね」→「明日は休みです」
5. 最後まで、はっきり、ゆっくり話す  
(例)×「あいにく、ちょっと…」(あいまいな表現) ×「わ・か・り・ま・す・か」(一音ずつ区切る)



### ●「はさみ」の法則

1. はっきり話す
2. さいごまで話す
3. みじかく話す

# 日本語支援

日本語支援は、教科学習や学校生活に必要な日本語理解を支えることを目的として実施しています。教科書等に用いられる語彙や文章表現の理解を中心に、生徒の日本語力に応じた支援を行っています。具体的には生徒に合わせ、主に「入り込み支援」「取り出し支援」「オンライン日本語クラス」を行っています。

## ■支援の具体的な取り組み■

- ・教科書や授業プリントに出てくる語彙の確認、ルビ振り、意味の補足
- ・授業中の指示や課題内容の理解確認
- ・生徒の理解度に応じた口頭での説明や確認
- ・提出課題サポート（提出物の確認・促し）
- ・教科の単語の多言語リスト作成
- ・試験のサポート、別室試験対応
- ・学校公文書の翻訳



補助教材

## ■入り込み支援■

支援員が授業に入り、生徒が授業を理解しているかを確認しながら支援をします。面談を実施し、学校側と調整を図り、支援に入る教科を決定します。支援のスタイルは、生徒のすぐ隣に座っての支援や、教室の後ろから見守りながらの支援など、生徒や先生方の要望に応じて行っております。

実施校	生徒数	実施科目
石川高校	1	現代の国語、国語表現、文学国語、公共、地理探究、生物基礎
大平特別支援学校	2	英語、理科、美術、道徳、特別活動
沖縄工業高校	2	現代の国語、沖縄の歴史、公共
嘉手納高校	4	現代の国語、言語文化、国語基礎、歴史総合、生物基礎、家庭総合、保健
具志川商業高校	1	論理国語、公共
知念高校	1	論理国語、地理総合、理科基礎
中部商業高校	6	現代の国語、言語文化、文学国語、英語コミュニケーションII、中国語I、歴史総合、郷土の歴史、公共、数学A、数学I、化学基礎、科学と人間生活、家庭総合、保健、保育基礎、簿記、マーケティング、ビジネス基礎、ビジネス法規、ビジネスコミュニケーション、情報処理
中部農林高校	4	言語文化、地理総合、公共、数学、生物、科学と人間生活、家庭総合、農業、農業と環境、情報
泊高校	5	言語文化、文学国語、英語コミュニケーション、歴史総合、公共、数学A、化学と人間生活、家庭総合、保育基礎、簿記、マーケティング、情報I、フードデザイン
豊見城高校	2	情現代国語、歴史総合
那覇みらい支援校	1	国語、社会、数学、理科、音楽、情報、自立活動
南風原高校	1	現代の国語、言語文化、公共、化学基礎、情報I
美里工業高校	1	言語文化、歴史総合、科学と人間生活

## ～入り込み支援の教科について～

入り込み支援において生徒からの要望が多かった教科は、国語表現や現代の国語などの国語科の教科が最も多く、次いで公共や歴史総合などの社会科の教科が挙げられます。

これは、生徒が教科内容そのもの以前に、教科書やプリントに用いられる語彙や文章表現の理解に課題を抱えることが多いためであると考えられます。特に国語系教科は、他教科の学習理解の土台となることから、支援の必要性が高い傾向が見られます。

## ■ 取り出し支援 ■

個別の支援が必要な生徒には、放課後などの時間を使って取り出し支援を行っています。授業を理解するために必要な日本語を学んだり、授業でわからなかったことを聞いたり生徒によって支援は異なります。放課後の取り出し支援以外にも夏休みなどの長期休みに必要な日本語力をつけるために個別で課題（宿題）に取り組んでいる生徒もいます。

### 【取り出し支援実施校】

実施校：12校 対象生徒：18名  
知念高校（1名）、嘉手納高校（1名）、石川高校（2名）、  
中部商業高校（1名）、具志川商業高校（1名）、中部農林高校（3名）、  
宜野湾高校（2名）、沖縄工業高校（1名）、美里工業高校（1名）、  
泊高校（1名）、豊見城高校（2名）、那覇みらい支援学校（1名）



支援の様子

### 【担当支援員の声】

お話しすると癒されると先生方からも評判の生徒Yさん。  
あるとき『細い』の反対は？』の問題に「デカイ」と回答。思わず笑ってしまいました。  
「その言葉は友達に使います。先生には使わないよ」と伝えると「えー知らなかった」と  
心底びっくりした表情。彼女の素直な性格とリラックスできる取り出しの時間は  
日本語力の向上にとっても大切だと感じました。

## ■ オンライン支援 ■

オンライン支援は、生徒のニーズに応じて、曜日や支援内容を調整しながら実施しています。  
例えば、話題のニュースを題材にグループに分かれて話し合い、感想を述べ合う活動や、慣用句の学習などを行っています。  
生徒同士の協働的な学びを意識した支援を行い、日本語の学習にとどまらず、自分の考えを整理し、意見を述べる力を育むことを重視しています。

担当支援員：6名  
参加生徒：7名



支援の様子

### 【オンラインクラスの一コマ】

生徒4人と支援員2人で、夕食やおやつを食べながら、リラックスした雰囲気の中で活動を行いました。この日は、説明を聞いて図形を描くゲームに挑戦しました。  
順番に自分の画像を言葉で説明し、他の人はその話を聞きながら絵を描き、最後に答え合わせをしました。「難しいよ」「これって日本語で何て言うの？」と声がる場面もあり、笑いの絶えない和やかな時間となりました。  
言葉の伝え方や聞き方の大切さを感じながら、楽しんで参加する様子が見られました。

# キャリア支援・居場所支援

日本語支援は、日本語を指導することだけではありません。

生徒が安心して学習に向かうための「居場所支援」や、卒業後どのように生きていくかを考える「キャリア支援」も含め、包括的に支援することが大切です。

日本で生活し、日本の学校に通うためには日本語を習得することが必要ですが、習得過程では、自分の伝えたいことを日本語で表現できずにもどかしく思ったり、周囲が理解してくれないという疎外感を感じる場合があります。

慣れない文化の中で生活することは、想像以上にストレスを感じます。外国につながる生徒は、日本へ来た背景、時期、そして日本語力もさまざまです。ほとんどの場合、保護者の都合により来日しているため、子ども本人の意思で来たわけではないということを前提に考える必要があります。

日本語に関すること以外でも例えば、

習慣の違い、文化の違い、なかなか馴染めないといった問題を抱えているケースが見受けられます

そのような生徒が安心・安全に学校へ通い学習に向かうための環境づくりも重要な支援のひとつです。



生徒が安心して支援を受けるうえで、支援者との信頼関係が必要不可欠です。日々の学校での支援において生徒に寄り添い、必要に応じて生徒が慣れ親しんだ言語で支援することもあります。これまで自分の言葉が周りになかなか通じずにいた生徒が、支援員が入ることできいきと自分の話をするようになったとの声もありました。

高校生になると、将来について具体的に考えるようになりますが、外国につながる生徒の場合、言語の壁や文化の壁、保護者の日本社会経験、就労状況等が課題になることが少なくありません。地域社会の受け入れ環境の整備も求められます。

また、学校と家庭だけでなく、サードブレイスから、地域社会への参画、社会性の獲得につなげます。

居場所支援・キャリア支援は、生徒が安心して学校生活を送り、主体的に考え行動する力を育てるための包括的な教育支援であると考えます。その実施にあたっては、学校内外の関係機関や、保護者・家庭との連携が重要です。

## ■ 取り組み事例 ■

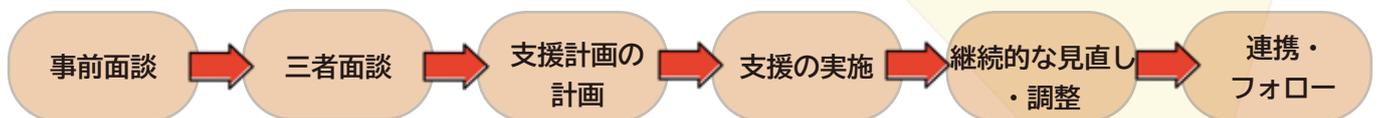
### ● 丁寧な聞き取りから支援を形に ●

支援に入る前に、担当教員および生徒との面談を実施し、丁寧な聞き取りを行っています。面談では、言語環境および言語形成過程に関する情報収集や簡易的なチェックテストを行い日本語能力の把握を行います。初めて支援に入る生徒については、保護者を交えた三者面談も実施しています。保護者との面談を通して、家庭での様子や言語の形成歴を把握することができこれらは支援を行う上での重要な手がかりとなります。

こうした情報をもとに支援計画を作成し、支援を開始します。支援開始後も生徒の状況に応じて入り込み支援の教科を増減したり、日本語力の強化を目的とした放課後支援を実施したりするなど柔軟な対応を行っています。

また生徒の様子に変化が見られる場合や、進路についての相談が必要な場合には、保護者も含めた面談を行い、担当教諭・生徒・保護者との連絡調整を図っています。

このように、関係者と連携しながら、生徒が安心して学校生活や学習に取り組めるよう継続的な支援を行っています。



## 安心して生活・学習できる環境づくり

### 【日本語力の把握および学習状況の確認】

日本語の学習状況を把握するため、初期確認のための簡易的なチェックテストを実施しています。あわせて、本人および保護者、学校からの希望がある場合のみ、学習上のつまずきや配慮が必要な点を把握するための基礎的なチェックも行っています。

これらの結果から、より詳しい確認が必要と考えられる場合には、本人およびご家族の同意を得たうえで、言語聴覚士によるさらに詳しいチェックテストを行います。その結果をもとに、生徒一人ひとりの状況に応じた支援方針の検討や、適切な助言・支援につなげています。

### 【取り組み事例】

#### ● 居場所支援

交流を目的とした取り組みを実施しています。主な取り組みとして「多言語スピーチ交流会」を開催し、県内の小・中・高等学校に在籍する海外にルーツのある生徒を中心に、発表と交流の場を設けています。また、オンライン支援においても交流の機会を設け、生徒同士や支援員との関わりを通して、安心して自己表現や相互理解ができる環境づくりを行い、生徒が前向きに生活や学習に取り組めるよう支援しています。

#### ● キャリア支援

放課後支援や取り出し支援において、進路を見据えた取り組みを行っています。生徒本人の意向や適性を把握するため、マインドマップや適性を考えるワークシートを活用し、将来像や関心を可視化する支援を実施しています。また、3年生に対しては受験支援として、志望理由書の作成支援や面接練習などを行っています。

# 『多言語スピーチ交流会』

## in おーきなわ

包括的な教育・支援の一環として、企画実施しました。小学生、中学生、高校生の参加者 23 名が、個人またはペアでスピーチを行い、自分の想いや経験を伝えることができました。会場に集った観覧者からは、あたたかいコメントが届きました。参加した生徒からは、「自信につながった」「友達ができた」というポジティブな感想が聞かれ包括的な教育としての開催の意義を感じました。

●日時：2025年12月7日（日）午後1時～4時30分

●場所：沖縄科学技術大学院大学（OIST）

カンファレンスセンター・ミーティングルーム1

●参加スピーカー：

- ・小学生 5人（英語、フランス語、日本語）
- ・中学生 7人（英語、ポルトガル語、日本語）
- ・高校生 11人（英語、タイ語、中国語、広東語、韓国語、日本語）

●観覧者：約60名（保護者、学校関係者、関係団体、地域市民）

●目的：自分自身のことを表現し、互いを理解し合い、交流を深め、  
学校生活や今後の進路について考える機会とする。

●内容：①開会あいさつ（沖縄県教育委員会 県立学校教育課 課長 屋良淳）  
②スピーチ：「伝えたいこと」小学生・中学生・高校生  
③交流会  
④フィードバック（沖縄県子ども日本語教育研究会）  
⑤記念品・賞状贈呈・閉会のあいさつ  
（県立学校教育課 指導主事 ルンシー裕子、株式会社うなぁ沖縄）



# < 参加者コメント >

日本語を学ぶのに苦労した人もたくさんいると思いますが、スピーチに向けて努力したんだと感じました。

みなさんよく頑張りました！！  
素晴らしいです。これからも日本での生活がよりよくなるよう私たちもサポートしますので負けずに頑張ってください。応援しています。



今後も多言語交流会がもっと開催され、子どもたちが沖縄で暮らすさまざまな国の同世代の仲間とふれあい、互いに学び合える機会が増えることを期待しています。

今回、子どもがこのイベントに参加し、沖縄での生活について発表を共有できたことがとても良かったです。

皆さんの発表はとても勇気があって、真心がこもっていて、そして細やかな素敵なシェアばかりでとても感動しました。

ふだん人に言うのがむずかしいことを堂々と話しており、きいている人に大きな勇気を与えてくれた。

こどもに発表する機会をいただき、いろいろな面での準備もとても整っていて、ここでは本当に温かさを感じます。



The idea and opportunity to participate for something like this and share diversified perspectives to a Japanese audience is amazing. (このような企画に参加し、多様な視点を日本の皆さんに共有できるという発想と機会は、本当に素晴らしいことです。)

I liked this event because it gave the children and us chance to connect with people from different culture and languages.  
(このイベントが好きでした。子どもたちにも私たちにも、異なる文化や言語を持つ人たちとつながる機会を与えてくれたからです。)

HAPPY NEW YEAR! 2026!



# オンライン新年交流会

日時：2026年1月14日（水）午後18時～20時

参加者：高校生7名（宜野湾高校、知念高校、嘉手納高校、具志川商業高校、中部農林高校）  
支援員4名、コーディネーター3名

目的：お互いのことを話しながら、交流を深める  
オンラインクラスへの参加意欲向上に繋げる

同じような境遇の仲間との交流を通して、日本語への  
興味や学習意欲を高め、学校生活の充実につなげる。



交流会のチラシ

内容：①はじまりのあいさつ、ジュースで乾杯

②自己紹介⇒名前、学校と学年、2025年一番笑った出来事 or 楽しかったこと

③交流タイム⇒お正月にまつわるクイズ大会とグループでお正月川柳作り

交流会の様子

～お正月にまつわるクイズ大会～

→発表者：アプリを使用して、ゲーム感覚でお正月にまつわるクイズを出題

参加者：出題されたクイズにアプリで回答

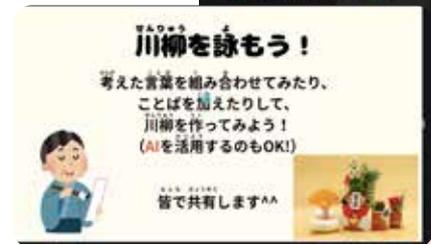
～お正月川柳作り～

グループに分かれてお正月にまつわる言葉から、川柳を作成。

最後に各グループの代表が作成した川柳を紹介する。

④2026年の抱負

⑤おわりのことば



参加した生徒に支援員から「日本語を勉強するモチベーションは何？」と逆質問し、それに対して生徒が日本語で一生涯懸命に答えていたのが、とても印象的でした。終始和やかな雰囲気、みんなニコニコしながら参加していました。お正月にまつわるゲームでは、さまざまな国のお正月の挨拶を出題し、答え合わせの際には生徒が自国のネイティブな言葉で発音を紹介してくれました。また、川柳づくりではお正月のキーワードをもとに、それぞれの国の文化や習慣について話題が広がり、生徒同士が自然に交流することができました。これらの活動は、互いの文化を知り合う良い交流の機会となりました。

## ～目標・チャレンジしたいこと、楽しみにしてることなど～

「大学進学を目指して勉強したい」

「日本語の勉強頑張る」

「筋トレをする」

「進路を決める」

「英検を3級、漢検7級をとる」

「ウェイトリフティングで全国大会にいきたい」

「玉掛け技能、クレーン運転の資格取得」

「イメチェンしたい」

「バイクの免許を取得したい」

# 「キャリアってな～に?!」 think & talk

日時：2026年1月30日（金）午後6時～7時半

参加者：高校生1名（具志川商業高校）

卒業生1名（北中城高校卒業生）

支援員3名（講師1名、ファシリテーター1名、文字解説1名）

コーディネーター3名



イベントのチラシ

## 【目的】

- ・高校を卒業した後の自分の進路、キャリアについて考える場、意見交換の場をつくる。
- ・キャリアについて意見交換することで、生徒、先輩、地域間のつながりと交流に繋げる。

【内容】 ファシリテーター：小池美砂緒さん（支援員）

(1) アイスブレイキング：私って〇〇な人！（自己紹介タイム）

(2) 講話「キャリアってな～に?!」：キャリアカウンセラー松園あかねさん（支援員）

(3) ゲストインタビュー「ワタシのキャリアストーリー」

エノヤ マイク、ジョエルさん（北中城高校卒業生）

加藤ルシアンナ美香さん（支援員）

(4) 交流会（感想共有）



イベントの様子



## ●アイスブレイキング（自己紹介）

参加者全員で簡単な自己紹介をした後、「私、実は〇〇なんです！」というテーマで盛り上がりました！

- ・私、実は、アイドルの追っかけをしています！
- ・私、実は、4人の子どものお母さんです！
- ・私、実は、甘いコーヒーが苦手！
- ・私、実は、インドネシア語が話せます！

## ●講話「キャリアってな～に?!」

日本語支援員でありキャリアカウンセラーでもある松園あかねさんのお話を聞きました！

本講話では、「キャリアとは何か」をテーマに、日常の選択との関係について説明していただきました。進路選択だけでなく、日々の小さな判断や経験の積み重ねが相互につながり、それら全体が一人ひとりのキャリアを形成していくことについて、わかりやすくご紹介いただきました。

## ●ゲストインタビュー「ワタシのキャリアストーリー Q&A」

卒業生のエノヤ マイク ジョエルさんにはQ&A形式で、コーディネーターの加藤ルシアンナ美香さんには自身の実体験を語っていただきました！

2人のスピーカーより、来沖した当時の心境や、文化の違い、言語面での困難、人間関係における戸惑いなど、海外から移住してきたからこそ抱える特有の悩みが共有されました。また、そうした経験や感じてきたことの一つひとつが積み重なり、現在の自分につながっていることについて、率直な言葉で語られました。

オンラインでの実施により、普段はなかなか話す機会のない人同士が交流することができ学校とは異なる落ち着いた雰囲気の中で、安心してざっくばらんに話し合える場となりました。その結果、参加者同士のつながりが自然に生まれ、温かく前向きな交流の輪が広がる有意義な機会となりました。

# 協議会および研修会

## 県立学校日本語支援事業連絡協議会

- 日時 ①2025年6月2日(月) ②2025年12月17日(水)
- 出席者 拠点校校長 3名  
拠点校日本語支援担当者 3名  
受託業者(うなゐ沖縄)代表、コーディネーター 3名
- 趣旨 共生社会の実現に向けた外国人児童生徒等の教育の充実を図るため、本事業の拠点校での指導及び他校に在籍する生徒への支援体制を確認し、今後の支援体制の在り方を協議する。
- 内容
  - ・委員等の紹介
  - ・事業説明等  
(事業説明、拠点校等の支援計画、実績報告、拠点校の支援状況)
  - ・意見交換
  - ・質疑応答

## 県立学校日本語支援事業外国人児童生徒教育運営協議会

- 日時 2026年1月28日(水)
- 出席者 県立学校教育課長 屋良 淳  
沖縄県高等学校校長協会会長 仲宗根 勝(県立那覇国際高等学校長)  
教育庁義務教育課長 新城 高広(代理)  
子ども未来部子ども若者政策課長 井上 満男(代理)  
琉球大学教育研究科教授 城間 園子  
受託業者(うなゐ沖縄)代表、拠点校コーディネーター
- 趣旨 共生社会の実現に向けた外国人児童生徒等の教育の充実を図るため、日本語指導が必要な生徒への効果的な指導法の構築と受入体制のあり方を協議する。
- 内容
  - ・委員等の紹介
  - ・実績報告等(①実績報告、②支援内容)
  - ・質疑応答
  - ・指導助言(琉球大学教育研究科教授 城間 園子)

# 令和7年度

## 県立学校日本語支援事業に係る指導力等向上研修会

- 趣旨 帰国・外国人児童生徒教育の充実に資するため、本事業に係る関係職員及び日本語指導支援員に対し、一層効果的な日本語指導ができるよう必要な知識・指導技術などを習得させるとともに、必要な施策やその実施にあたっての諸問題等について情報共有などを行う。
- 講師 横浜市教育委員会事務局学校教育部学校経営支援課 指導主事 横溝 亮  
(文部科学省「外国人児童生徒等教育アドバイザー」より派遣)
- 日時・場所 令和7年11月26日(水) 14:00～16:30 沖縄県立総合教育センター
- 主催 沖縄県教育委員会(主管課:県立学校教育課) 株式会社うなあ沖縄(本事業委託事業者)
- 研修内容 日本語指導ができるよう必要な知識・指導技術などを習得させるとともに、日本語指導を必要とする児童生徒を支援する主に担当、担任、教科担任、支援員の役割などの学校体制について研修を行う。

外国につながる子どもたちの指導で大切にしてきたこと

<b>実物・図表・写真・絵等を積極的に利用</b> <ul style="list-style-type: none"><li>日本語力が十分でない外国につながる児童には、言葉だけの説明や抽象概念の操作は難しい。</li><li>具体的なイメージづくりを助ける。</li><li>具体的な活動を取り入れる。</li></ul>	<b>わかりやすい言葉遣い</b> <ul style="list-style-type: none"><li>短く、明確、的確な言葉を選択する。 →文が長い説明をできるだけしない。</li><li>発問の仕方を工夫する。(発問と応答のパターン化)</li><li>重要事項は繰り返し伝えて定着を図る。</li><li>言葉で「ことば」を説明しない。</li></ul>	<b>わかりやすい授業</b> <ul style="list-style-type: none"><li>欲張りすぎず、一度に指導する内容を精選する。</li><li>教科と日本語の学習は、「語彙」の学習ではなく、「教科の概念」の学習であることを指導者が理解して指導をする。</li><li>既習事項の確認と本時の連続性</li><li>聞く、読む、話す、書くを1時間の授業の中にバランスよく取り入れる。</li></ul>
---	---	---

本書の教育日本語指導の手引きは、教科学習につながる教材と指導方法より抜粋

支援体制の構築

(1) 支援組織の設置

日本語指導が必要な生徒の受入れと支援は、担当者やホームルーム担任が個別対応するのではなく、学校が組織として取り組む必要があります。校内に関係教職員等で構成される委員会(『日本語指導が必要な生徒支援委員会』等)を設置したり、多文化共生教育や日本語指導をコーディネートする担当を、校務分室に位置付けたりすることが考えられます。当初は、特に定期的な情報交換を行うことが大切であり、議題に応じてメンバー以外の関係者にも、聞き取りや委員会への出席を求めると、柔軟に対応することも必要です。

支援委員会の協議内容例

- 「特別の教育課程」による個別指導や「取り出し」授業、「入り込み」指導等の必要性の見極め
- 教科指導(定期考査等を含む)における支援の工夫
- 文化的な背景への配慮
- 学校生活への適応
- 多文化共生教育の推進
- 保護者への対応
- 校内の業務分担

東京都教育委員会 「外国につながる生徒への指導ハンドブック」参照

日本語指導力向上研修会 (2025.11.26) 横溝亮先生 スライド資料

## 《参加者の気づき・学び》

支援をコーディネーターや日本語指導支援員のみで担うのではなく、教科担任、担任、日本語支援担当者等が連携し、学校全体で組織的に支援する体制の構築が不可欠であることを確認した。

「ことばの発達と習得のものさし」の資料は、知識習得のステップがわかりやすく整理されており、生徒の実態把握や支援の参考に活かせると感じました。

本校では、コーディネーターの参入で、生徒達の学びの環境が劇的に変化し成果となっています。今後、日本への外国人労働者が増加傾向となることから、日本語支援事業の必要性を強く実感し、この事業がもっと広く周知されて欲しいと思いました。

今回は、日本語支援に関わる職員を対象としていましたが、今後は、経年研や管理職研修でも必要になってくるものだと思います。いろんな生徒(発達特性あり、肢体不自由など)が入学してくるので、学校現場はその対応に苦慮していますが、外国にルーツがあり、言葉に不自由さを抱えている生徒も今後増えてくると考えられます。

日本語の指導に加え、学習意欲や自己肯定感といった情意面への支援の重要性について理解が深まり、安心して学べる居場所づくりや、日常的な声かけ・承認を重視した関わりの必要性を認識した。



日本語能力の不足を補う支援にとどまらず、児童生徒がもつ母語能力、学習意欲、認知力などの強みに着目し、これを生かして学習を支える「ストレングス・アプローチ」に基づく支援の重要性を再認識した。

# 拠点校の声

- Q1. 支援の前後で、生徒の変化はありましたか。 Q2. 支援の前後で、学校内部（職員）の変化はありましたか。  
Q3. 支援員の関わり方はどうでしたか。 Q4. 次年度に向け、改善点を教えてください。

嘉手納高校	A1	欠席が多く、生活リズムも安定しない様子が見られました。しかし、日本語支援での継続的な関わりを通して、表情が柔らかくなり、自分の思いを言葉で表現してくれる場面も増えてきました。多言語スピーチの参加なども自信となり登校意欲の改善や学習への前向きな姿勢につながったと感じています。
	A2	授業中に日本語支援の支援員さんが対象生徒をサポートしてくださることで、生徒の理解が促され、全体の授業運営をスムーズにすることができている。日本語支援に関する職員の意識も高まり、日本語支援を必要とする生徒として認識し、対応方法をともに考えてくれるようになっていきます。
	A3	「学習支援、キャリア支援、居場所支援」と生徒それぞれの状況に応じて丁寧に支援されていました。語彙指導や学習内容の補足説明によって、授業へ向かう安心感のようなものを感じられたように見受けられました。保護者対応もして下さり、生徒の安心した学校生活へつながっていると思います。
	A4	切れ目のない支援をお願いしたいです。
中商部業高校	A1	支援員がついたことで安心して学習に取り組めるようになり、表情も明るくなった。
	A2	日本語支援が入っている生徒達の困り感に意識を向けてくれる先生方とあまり気にならない先生達がいたように思う。
	A3	授業だけでなく、考査時のサポート等もしていただいて、生徒達の成長に繋がっていた。
	A4	予算の関係で難しいのは承知の上で、やはり4月当初からの支援開始が理想。
泊高校	A1	本事業の対象となった5名の生徒は、支援開始前は日常会話は可能であるものの、教科学習に必要な語彙力や文章理解に課題があり、自身の理解度を十分に把握できていない様子が見られました。支援開始後は個々の日本語力や学習状況に応じた丁寧な支援を受けることで、授業内容の理解が深まり、学習の取り組み方にも前向きな変化が見られるようになりました。特に、定期テストにおいては、問題文へのルビ振りやテスト中の別室での語彙説明などの手厚い支援を行っていただいたことで、内容理解が進み、点数の向上が見られた生徒もあり、学習に対する自信につながっていました。また、コーディネーターや支援員とのやりとりを通して、自身の弱点や学習上の課題を言語化できるようになった生徒もあり、学習意欲や主体性の向上が見られました。
	A2	支援開始前は、外国籍生徒の日本語力や学習上の課題について、教職員間での共通理解が十分とは言えず、対応が個々の教員に委ねられていました。うなゐ沖縄様の日本語支援コーディネーターによる生徒の実態把握と支援内容を、分かりやすい形で職員に共有していただいたことで、生徒の状況を具体的に把握できるようになりました。その結果、授業や評価、声かけの際に配慮すべき点が明確になり、学校全体として統一した視点で生徒を支援できる体制が整いました。全職員で今後の指導方針と支援体制を検討する機会にもつながり、校内連携の強化が図られました。
	A3	日常的な学習支援に加え、定期テストにおいても、問題文へのルビ振りや別室での語彙の説明など、生徒が内容理解に集中できるよう、きめ細かく対応をしていただきました。また、生徒の苦手な部分や要支援となる授業内容について、丁寧に聞き取りを行うなど、真摯に寄り添った関わりが見られ、生徒が安心して学習に取り組む姿勢が育まれたと感じています。
	A4	本事業については大変有意義であると感じているため、可能であれば4月スタートから翌年3月までの一年間、学年が上がる生徒に対しては、切れ目のない支援体制を整えていただけると、より効果的な支援につながると考えます。

# 拠点校の取り組み

<p>嘉手納 高校</p>	<p>職員室内の支援担当教諭の近くに、日本語コーディネーターおよび日本語支援員の席を配置し、日常的に情報共有ができる体制を整えています。また、生徒が安心して学校生活を送れるよう、居場所支援としてランチを共にする「安心していられる時間」を設け、丁寧に話を聞く取り組みを行っています。</p>
<p>中部商業 高校</p>	<p>多目的室を設置したことで、生徒が気軽に交流できる場が生まれました。日本語支援の場であると同時に、居場所支援の側面も持つ空間として機能しています。支援員の控室としても活用され、情報共有や支援の相談が円滑に行えるようになり、支援員同士や生徒・教員との関係構築にもつながっています。支援生徒は友人と昼食や雑談を楽しめるようになり、カードゲーム等を通して他の生徒も集まる場となっています。</p>  <p>多目的室 での様子</p>
<p>泊高校</p>	<p>まず、職員室内にコーディネーター用および支援員用のデスクを設置しており、日本語支援担当者、担任、教科担当の先生方との情報共有や連携がスムーズに行える環境を整えています。また、職員会議において支援状況を共有する機会もありました。生徒の状況や支援上の課題について教職員全体で情報を共有し、共通理解を深めるよう努めました。</p> <p>授業においては、一つの科目が2時間連続で行われるカリキュラムとなっており、支援員が控室へ戻ることなく休み時間を生徒と過ごすことが時々あります。授業中にはできないような雑談などの対話が自然と生まれ、生徒と支援員の間に信頼関係が育まれ距離が縮んでいる様子が見受けられます。</p> <p>また、日本語の支援だけではなく居場所支援の側面として、必要に応じて学校行事においても支援員がサポートにあたる場合があります。日本語での意思疎通が難しいことで生徒が孤立しないよう、基本的に見守りを行いながら、必要な際にはクラスへスムーズに参加できるように促すなど、安心して学校生活を送れるよう支援しています。</p>

# 支援員みなさんに生徒とのストーリーを聞いてみました！



- ①生徒の変容
- ②何気ない一言から感じたこと
- ③日々の生徒とのコミュニケーションを通して考えたこと

## ①生徒の変容

### 【信頼関係・対人面の変化】

当初は消極的だった生徒が、挨拶や返答をするようになり、支援員との信頼関係が構築された。

支援員室を自ら訪れ、安心して話せる関係性が形成された。

休み時間に友人と交流する姿が増え、教員からも表情の変化が見られるとの声があった。

### 【日本語力の向上】

授業や友人との会話理解が進み、日本語で応答・表現する力が向上した。

作文や小論文で自分の考えを表現できるようになった。

書字速度の向上や翻訳機器使用の減少が見られた。

### 【自己肯定感・母語支援の効果】

できることを認める支援により、自己肯定感が高まった。

母語を活用した支援により理解が深まり、活動参加の幅が広がった。

母語が分かる支援員の存在が安心感につながり、教職員間でも生徒理解が促進された。

### 【学習意欲・主体性の向上】

放課後支援やオンライン学習に自主的に参加するようになった。

進路について自ら質問するなど、将来を見据えた意識が高まった。

読めない漢字を質問する、ルビを振る、メモを取るなど主体的な学習行動が見られた。

### 【学力向上】

テスト得点の向上やクラス変更など、具体的な成果が確認された。

継続支援により、日本語力と学習意欲の好循環が生まれた。



## ②何気ない一言から感じたこと

### 【傾聴と適切な距離感】

生徒の話を最後まで傾聴し、  
思いや希望を尊重する。

支援の押し付けにならないよう  
様子を見ながら関わる。

近づきすぎず離れすぎない距離を保ち、  
必要な時に支えられる関係を築く。

### 【自己肯定感への配慮】

小さな成長を具体的に伝え、  
自信につなげる。

日本語力のみで判断せず、  
母語での力や基礎学力も評価する。

否定的な言葉を避け、  
忍耐強く関わる。

### 【主体性を育てる関わり】

答えをすぐに教えず、  
考える時間を大切にする。

結果だけでなく努力の過程を認める。

生徒自身が発言・表現できるよう支援する。

### 【状況に応じた支援】

初期は丁寧に状況把握を行い、  
指導方法を工夫する。

困り感には適切に声をかけつつ、  
過度な介入は控える。

必要に応じて翻訳や語句説明を行い  
授業理解を支える。

## ③日々の生徒とのコミュニケーションを通して考えたこと

### 【効果的だった取り組み】

授業プリントを事前に受け取り、ルビ振りや母語訳を付けることで、  
教材に目を通す姿勢が見られるようになった。

国語教材の英訳や母語教材の活用により、内容理解が進み、課題への取り組みが向上した。

ホワイトボードを用いて漢字の読み・意味や「止め」「はね」などの  
基礎を丁寧に確認することで、定着につながった

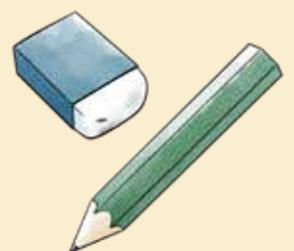
授業冒頭に学習の流れや提出物を確認し、必要に応じて補足説明を行うことで、  
見通しを持って取り組めるようになった。

### 【工夫が必要だと感じた点】

授業進度が速く、やさしい日本語での説明が十分にできない場面があり、  
授業後の復習時間の確保が課題である。

入り込み支援は毎時間対応できないため、  
継続的に内容理解を支える方法の工夫が必要である。

支援を希望していない生徒への関わり方は特に配慮が必要であり、  
個々に応じた方法の模索が求められる。



# 生徒の皆さんにも 聞いてみました！



- 支援員が来る前と来た後で変わったこと
- 良かったこと、嬉しかったこと

- ・授業の内容が前より理解しやすくなった。 G.Y (知念高校)
- ・読めない漢字、教えてもらってわかりやすい。 C.J.G (泊高校)
- ・頭がよくなった。 H.E (中部商業高校)
- ・支援員が来る前は学校が苦手だったけど、学校が楽しくなった。 H.S (嘉手納高校)
- ・日本語が上手になった。 H.Y.S(石川高校)
- ・授業が集中できるようになった J.T (泊高校)
- ・テストの前に勉強できてよかった L.C (中部農林高校)
- ・授業中の提出物や授業についていけるようになった。 N.M.R (南風原高校)
- ・支援員がとりにいるとすぐ授業についていける。 N.M.R (南風原高校)
- ・来る前は一人で勉強を進められなかった。 N.M (具志川商業)
- ・支援員が来る前は進路にとっても困っていましたが、何回もプレゼン練習など手伝っていただき、大学に合格することができました。 P.P (豊見城)
- ・支援員が来てから漢字がたくさん読めるようになった。 R.R (嘉手納高校)
- ・教えてもらっていることを簡単に理解できるようになりました。 S.D.J.C (中部商業)
- ・下手でできないと思っていた国語と歴史が少々わかってきた。また色々相談できるので良かった。 S.M (豊見城高校)
- ・支援員さんと話すのが好き。一緒に勉強してくれる友達みたいで気持ちがいい。 S.P (泊高校)
- ・試験の結果がめっちゃ変わりました。 Z.S (泊高校)

●これから挑戦してみたいこと

英検二級に挑戦したい。

免許をとる。

ジムに行って体を動かしたい。

バイトしたい。

漢字をもっと勉強して本を読みたい。

日本語検定頑張りたい。

3.5の平均を取りたい。

私は5-10年後歌手になるため、  
バイトやオリジナル曲を作ったりして  
音楽の面で頑張りたい。

英検1級受かる。

もっとオープンに人々と語りたいたです。

バンジージャンプをやりたいです。

玉掛けの資格を取りたいです!!

タイに帰る。

ネイルの勉強もしたい。

仕事をする。

バイトしてみたい。

彼女作りしたい。

もっといろんなことに参加し、  
実績を作って成績をあげたい。  
新しい部活にも入りたい。





# おわりに

## — 支援の輪を、持続可能な仕組みへ —

本年度も日本語支援事業を継続実施し、3拠点校を基軸とする統括体制のもと、各校の実情に応じた支援を展開した。初期アセスメントの体系化、合理的配慮の具体化、ケース会議を通じた校内連携の強化に加え、やさしい日本語の活用や教職員との協働を推進したことにより、学習支援のみならず、心理的安全性の確保や居場所づくりの面においても一定の成果が認められた。

一方で、対象生徒数は増加傾向にあり、支援ニーズは量的・質的の両面で拡大している。

加えて、支援を必要としながら顕在化していない潜在的ニーズへの対応、不登校傾向生徒への接続、校内全体への理解浸透など、体制の質的深化を要する課題も明確となった。

これらの状況を踏まえると、日本語支援は学力保障のみならず、不登校や中途退学の未然防止を含む教育基盤としての性格を一層強めている。

今後、具体的な体制拡充を講じなければ、教育機会均等の実質的確保に影響を及ぼす可能性がある。

3拠点統括体制の強みを活かしつつ、支援時間および人的体制の計画的拡充を次年度に向けて検討することが不可欠である。本事業を持続可能かつ実効性の高い施策として確立するため、安定的な体制整備を着実に進めていく必要がある。

### 理念・方向性

#### 「基盤づくりから定着へ」

- ・当事者参加型支援計画の導入
- ・初期アセスメントの精緻化
- ・合理的配慮の標準化
- ・校内体制の明確化

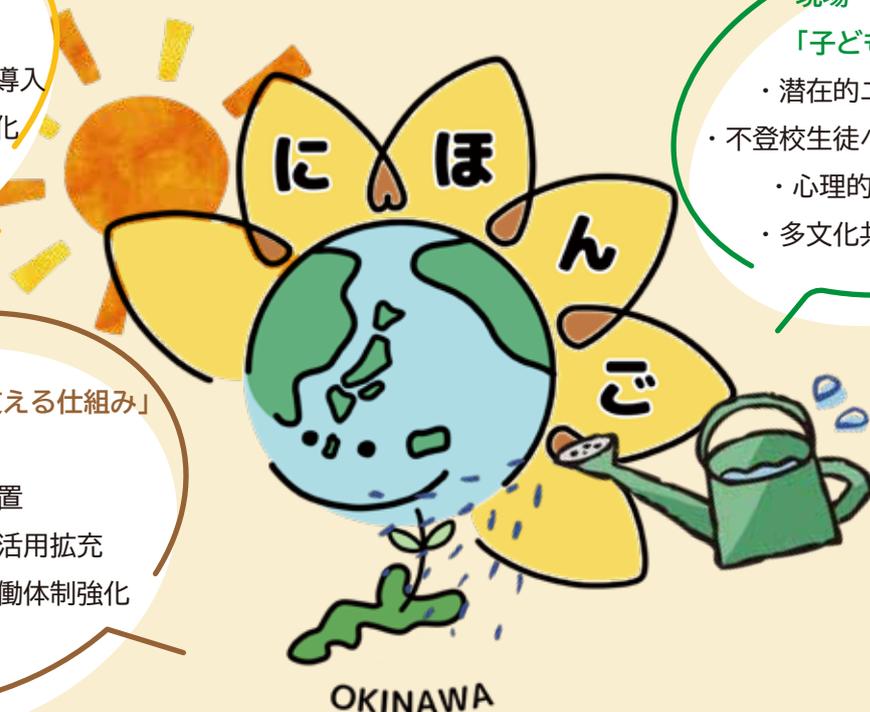
### 現場・子ども視点

#### 「子どもを中心に」

- ・潜在的ニーズの可視化
- ・不登校生徒への接続モデル構築
- ・心理的安全性の確保
- ・多文化共生理解の推進

### 体制基盤「支援を支える仕組み」

- ・安定的財源の確保
- ・専門人材の継続配置
- ・オンライン支援の活用拡充
- ・学校・地域との協働体制強化
- ・評価指標の明確化



本事業が今後も継続され、より良い支援や取り組みの蓄積や広がりにより、外国につながる子どもたちが自分らしく生きていける力を育むことに繋がることを期待します。ひいては、沖縄の学校現場、地域全体に多文化共生社会が構築されていくことを願います。

男性:สวัสดีครับ(サワディー カップ)  
女性:สวัสดีค่ะ(サワディー カー) / タイ語

こんにちは / 日本語

안녕하세요(アニョハセヨ) / 韓国語

नमस्ते(ナマステ) / ヒンディー語

男性:ハイサイ

Boa tarde(ボア タルヂ) / ポルトガル語

女性:ハイタイ / 沖縄語

Wah a gwaan?(ワグワーン) / ジャマイカ語

السلام عليكم(アッサラー ムアレイクム) / ウルドゥ語

你好(ニーハオ) / 中国語

Hello / 英語

Maayong hapon(マアヨン ハーポン) / ビサヤ語

Xin chào(シンチャオ) / ベトナム語

ជំរាបល្អ(チュムリアップスオ) / クメール語

Salaamaalekum(サラマレイクム) / ウォロフ語

नमस्ते(ナマステ) / ネパール語

Buenos dias(ブエノスディアス) / スペイン語

Bonjour(ボンジュール) / フランス語

Magandang hapon(マガンダン ハーポン) / タガログ語

※これまでの支援対象生徒とつながりのある国の「こんにちは」です。

事業主管

 **沖縄県**

沖縄県教育庁県立学校教育課

〒902-8501 沖縄県那覇市寄宮1丁目2番16号(旧県立図書館)  
TEL:098-866-2715  
FAX:098-866-2718

事業受託

 **うなあ沖縄**

株式会社 うなあ沖縄

〒904-2232 沖縄県うるま市川田402-1 2F  
TEL:050-3000-7492  
FAX:050-3730-7940